

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472601333	事業の開始年月日	平成13年4月1日
		指定年月日	平成13年4月1日
法人名	社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会		
事業所名	グループホーム相模原		
所在地	(252-0331) 神奈川県相模原市南区大野台5-13-7		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	8名 ユニット数 1 ユニット
自己評価作成日	令和6年1月8日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1ユニット8名の小規模で、週3回スーパーへ入居者の方と一緒に買い物に行っています。食事の準備もその方の能力に合わせ、盛り付けや食材切り等できることをそれぞれしてもらっています。
入浴も時間にとらわれず、午前午後と入りたい時間帯に声掛けをしているので、選べる自由がありゆっくりと入浴を楽しんでもらっています。ご家族が提案してできた家族会はコロナ禍で活動休止をしていましたが、今年度から再開した家族会総会、日帰り旅行ではご家族と一緒に特養のホールで食事をしながら一年間のスライドショーを見て頂き、入居者の日常風景も理解していただきました。
年末恒例だった家族会大掃除も再開し、自分の居室の掃除をご家族と一緒にしていただいたり、グループホームの畑で採れたさつまいもを焼き芋にし家族の方々にも振舞いました。地域包括支援センターとの合同で開催したよりみちカフェでは、移動販売のパン屋さんが来られ近隣の方や他事業所との交流もあり、外で美味しいパンを食べながら皆で歌を歌ったりして楽しいひとときを過ごせました。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年2月19日	評価機関 評価決定日	令和6年4月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR横浜線「古淵」駅から徒歩約20分、または、小田急線「相模大野」駅よりバスに乗り「老人ホーム入口」より徒歩10分程の閑静な住宅地にあります。定員8名のグループホームです。認知症対応型デイサービスを併設しています。敷地内に養護老人ホームもあります。

<優れている点>

事業所では、認知症ケアを熟知した介護職員が多く在籍しています。顔なじみの職員が生活を共にしながら見守り、家庭的な雰囲気の中で利用者は「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」過ごせるように努めています。食材の買い出しや、調理や食事の準備、清掃などの役割を持ち生活しています。一緒に買い物や散歩をしたり、趣味に打ち込みながら生きがいを感じ、周りから必要とされている実感を持って生活が送れるよう支援しています。また、多くの子どもが参加する花火大会の開催や、大野台地域包括支援センターと共同開催の「よりみちカフェ」に参加したりと、地域との交流を深めています。

<工夫点>

見守り支援システム「眠りスキャン」を導入し、利用者の心拍数・呼吸数・睡眠状態・起き上がり・離床などがパソコンでリアルタイムに把握でき、体調変化の早期発見、健康管理に役立てています。また利用者の睡眠状況が一目で分かるため効率的な見守りができ、夜勤業務の負担が軽減されています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム相模原
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関にグループホームの理念を掲示し、困った時には理念を確認し合い、理念に沿った支援につなげている。	理念「『私らしく』生活できるよう」を掲げています。多く在籍するベテラン職員を筆頭に理念が浸透し、実践に繋がっています。一緒に食材や日用品の買い物、調理や食事の準備、洗濯、清掃などの役割を持つことや、趣味を楽しむなど、利用者のペースに合わせた支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	よりみちカフェ（地域包括と共同で）、かのこカフェ（認知症カフェ）に参加し、地域の方々と交流を図っている。地域の大きい行事（夏祭りやどんど焼き等）はコロナ禍になり参加できていなかったが、今後はまた参加していきたい。	大野台地域包括支援センターと共同開催の「よりみちカフェ」には地域の人々100人程の参加があり、繋がりを持ち助け合う関係性を築いています。地域の子どもたちとの触れ合いも大事にし、地域交流会「花火大会」も実施しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	かのこカフェ、よりみちカフェ等を通して、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かせる場面はあるが、グループホーム単体で直接的に地域貢献をするようなことはまだない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回運営推進会議を開催し、参加できなかった方には報告書を渡したり、コロナ禍の際には一方的な報告だけにならないよう、意見等フィードバックしてもらえよう返信用の用紙も配布した。	民生委員、相模原市南区高齢者相談課職員、大野台地域包括支援センター職員、家族、利用者等が参加しています。活動報告、情報交換、意見交換をし、運営に反映しています。「グループホーム相模原」の日常やイベントを毎回写真で伝えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市南区高齢者相談課の職員には運営推進会議に参加してもらい情報交換をしているが、一緒に何かを取り組んだ事例はなし。	介護認定更新手続きや事故報告の提出、運営推進会議等を通じて行政と連携しています。また、事業所で起きた不適切ケアと思われる事象について当局に相談しアドバイスを得ています。大野台地域包括支援センターと「よりみちカフェ」の共同開催で協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3か月に1回委員会を開催、年2回の研修等を通し、拘束にあたるような事例はないか職員で話し合い検証、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化のための指針を整備しています。身体拘束廃止検討委員会、研修を実施し職員の理解を深めています。委員会では、事業所内で「身体拘束に当たるようなことはないか」を検討し拘束のないケアに取り組んでいます。スピーチロック等についても職員間で注意し合い、防止に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修を行うことで虐待の種類等学ぶ機会を作ったり自己点検シートを活用し話し合いを行っている。事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めているが、万が一の時の為に通報先等は事務所に掲示している。	虐待防止委員会、研修を実施し、「自己点検シート」を活用し虐待防止に努めています。不適切なケアについて、職員間で注意し合い防止に努めています。職員会議で事例検討を行い、話し合いの場を設け、一人で抱えず皆で共有し、ストレスを持たないケアを心掛けています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修で学ぶ機会はあるものの制度の理解が難しく、現在のところは必要と思われる方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には家族等に十分に説明を行い同意を得ている。その際に質問や疑問点を尋ね、不明点等気軽に聞ける雰囲気作りを心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に家族や利用者本人も参加できる体制になっており、意見を求めている。家族からの苦情には苦情検討委員会にあげさせてもらい他部署にも周知し、対応策も家族に伝えた。	家族の面会時や家族会、運営推進会議、電話等で意見や要望を聴く機会を設けています。コロナが5類に移行後、時間の制限なく居室面会を再開しています。運営推進会議に毎回、家族・利用者の参加があり、意見交換しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議には施設長も参加し運営に関することを報告・説明してくれ、現場の状況を伝えたり意見を言いやすい雰囲気にはなっている。	毎月定例の職員会議で意見を出し合い運営に反映させています。会議前に「会議で話し合うことノート」に協議したい内容を記し、活用しています。全職員が行事計画を始めとした各々の業務を担当し、責任をもって運営に参加しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	有給休暇を平等に取れるようにし、デイサービスの運営状況が目標達成したことにより、さらに数日職員に休暇を取れるようにした。	明確な評価基準に基づき評価を行い、職員の目標設定・自己評価シートに基づき施設長が面談し就労意欲を喚起しています。事業所の運営数値目標達成により、職員に連続4日の有給休暇を付与し、モラールアップ（労働意欲の向上、士気向上をはかること）を図っています。職員専用の休憩室、ロッカーを設置しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修にはそれぞれの職員が興味がある内容を選んで受講することもあり、研修後には職員会議で他職員に研修報告をし情報を伝えている。	外部研修は、研修案内を職員休憩室に掲示し、希望する研修を受講することが出来ます。外部研修受講時は出勤扱いとし、受講費用の支給があります。受講後には、事業所で2次研修を行うようにしています。新入職員はベテラン職員等によるOJT研修で育成しています。	事業所としての年間研修計画を策定し、計画に基づいた研修を実施し、研修実施記録を整備しておかれることが期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市グループホーム部会や市グループホーム連絡会への参加を通し、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始時には本人の要望や今までの生活歴を聞き取り、利用者をより知る為に注意深く観察し以後のサービスに活かせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用開始時には家族が意見や要望を言いやすいようコミュニケーションを密にとり、疑問点や不明点等を聞き、安心してサービスを開始できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居申込の際には詳しく聞き取りを行いデイサービスの紹介を行っているが、サービス利用開始の段階では、他のサービス利用も含めた対応を検討するような事例はなし。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	理念に沿ってできることは声掛けしやってもらうことで生活リハビリにつながり、利用者を一緒に生活している者という対等の立場で関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会行事の再開により、家族の方にも一緒にグループホームの運営に関わってもらうようにしており、利用者と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていけるよう関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽に近所の方や友人が面会に来てもらえるような環境作り、他部署の顔なじみの職員に会いに行ったり、里帰り行事を通して馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	コロナが5類に移行後、馴染みの人との面会を再開しています。友人や親族の訪問時は居室で自由に過ごしてもらえるように配慮しています。本人の希望や家族と相談のうえ、馴染みの場所や思い出の場所に「里帰り支援」として行事計画に入れ年に1回、実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	その日その時で感情や態度が変わることがあるのでその時に合った関わりができるよう職員が間に入ったり、日頃からの仲の良い悪いを見極め、孤立しないよう支援しているが無理に近づける必要がない方もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなって退去になる場合がほとんどの為本人を交えたフォローはほぼないが、特養に移った方には看取りになった際に最期に会いに行ったり、必要であれば家族の方にはできる限り相談にのったりフォローしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族にも協力してもらいながら生活歴の把握に努め、本人の希望や意向に沿った生活ができるよう支援している。（例えば提供の食事だけではなく本人用の補食を食べたい時に提供、時間になったら起きてもらうのではなく本人の起きたい時間に起きる等）	利用者の希望や意向を実現するための話し合いを職員会議で行っています。利用者の好きな漬物や菓子、嗜好品の差し入れがあります。家族とのクリスマスパーティーや正月など、利用者の意向を大切にしよう心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際に家族に聞き取りをし生活歴の把握に努め、担当ケアマネージャーにも協力してもらい情報を得ることもあり。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりのできること・支援が必要なこと等をまとめ職員間で情報共有をしている。時間に囚われず本人の過ごしやすい様にしてもらい、その時の感情や態度の観察を行いそれに合わせた対応をし個別記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	それぞれの居室担当者が期間ごとにモニタリングを行い、定期的にアセスメントを全職員で3日間実施。本人・家族に意向を聞き取り現状に即したケアプランを作成し同意いただいている。	ケアプランは、長期目標を1年、短期目標を3ヶ月としています。職員が、利用者視点での課題を記入した「24時間アセスメントまとめシート」や居室担当者が行った「個別モニタリング」を参考に話し合いケアプランを作成しています。家族の要望は、電話や来訪時に聴き取り、ケアプランに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子等は個別記録や申し送りノートの活用により出勤時に確認することで職員間の情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居に関しては特に事例はなし。デイサービスにおいて、利用日ではない方が急に自ら来所した際に柔軟に対応した事例あり。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	スーパーに買物に行ったり近所の美容院で散髪をしたりと地域との関わりを継続しており、地域包括の職員とも連携を取り一緒に何かできることはないかと模索中である。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居の時点でかかりつけ医変更の同意を得ており月2回先生の往診あり。突発的な他科受診については適切な医療を受けられるよう看護師が間に入ってくれたり家族にも協力を仰ぐこともあり。	月2回の内科医の訪問診療・理学療法士のリハビリ、週3回の訪問看護を行っています。月2回、併設施設に皮膚科・眼科の医師が訪問診療を行っており、必要な利用者は受診しています。夜間は看護師が電話でのオンコール対応をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師には伝達ボードを利用し情報を伝えたり、緊急性のある場合はすぐに連絡をする等している。利用者の心身の状況の変化があった際にはすぐに報告・相談し適切な処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には病院関係者や家族とこまめに連絡を取り合い、早期退院できるよう働きかけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期に向け入居の段階で意向を聞いており、状態が低下してきた際等にも意向の再確認をし他職種と連携を取りながら支援している。看取りについての説明は看護師にも入ってもらい、研修を通して看取る側の心の準備等も再確認している。	重度化や終末期の方針は、状況が変化するごとに医師・看護師・家族・職員で話し合っています。家族の意向を尊重し、最期の数日を利用者の居室に泊まり、家族が看取った例もあります。通常の研修の他、実際の終末期ケア時は、個々に即した研修を改めて行い、より家族や本人に寄り添った支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の連絡先はフローチャートを作成し看護師とは24時間連絡をとれる体制にあり。訓練を定期的に行っておらず、最近では事故等緊急性のことがない為動きの再確認は必要と思われる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に昼夜想定避難訓練（地震・火災）を実施し、その時に参加した職員がその都度周りの職員に内容を伝えている。	防災訓練は年2回、夜間時想定訓練も含め同法人の併設施設と合同で行っています。併設施設職員との協力体制は万全で、どこが出火元でも対応出来るように備えています。備蓄品は3日分の水と食糧などを防災倉庫に備えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の言っていることについて否定をしないことを前提に、一人ひとりの人格を尊重した言葉遣い・対応をするよう努めている。	職員は、利用者を人生の先輩として敬うため、接し方や言葉遣いなどを研修会や面談を通じて学んでいます。プライバシーの確保に配慮し、入浴介助時には、本人の意向で同性介助を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人にどうしたいのかを確認したり、YES/NOで答えられるような声掛け、移動スーパーが来た際には自分で品物を手に取って選んでもらう等の働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝起きる場面から、一人ひとりのペースに合わせた支援の実施。睡眠・食事・入浴・散歩等集団ケアにならないよう、その方のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	食べこぼしや食後の手や口の周り・衣類の汚れ等には気をつけ、髭剃り・化粧等今までやっていたことが継続していけるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備には利用者にも協力（包丁を利用したカットや盛り付け・洗い物等）してもらい、一人ひとりの得意なことを活かしながら一緒に行っている。	管理栄養士監修の献立を職員が考案し、食材は利用者と買い出しに行っています。利用者は食材の千切り、盛り付け、片付け、包丁研ぎなど、得意分野を積極的に行ってもらえるよう声掛けをしています。季節ごとにパーベキュー、七草粥など行事食の提供もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員が立てた献立を栄養士にチェックしてもらいアドバイスをもらっている。一人ひとりの状態に合わせた食事量・食事形態での提供、水分があまり進まない方には好みのものを提供したりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後落ち着いたタイミングで口腔ケアの声掛けを行い歯磨きを実施している。介助が必要な方は職員が行い、月1回歯科往診が入り専門的に口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方には排泄チェック表の活用、すぐにオムツにするのではなく、介助が必要な方はそれぞれに合ったタイミングで誘導をしたり、自立している方でも長い時間トイレに入っている際は失敗している可能性もある為さりげなく声掛けをし対応している。	職員はタブレット内の「排泄チェック表」に排泄状況を記録、情報共有し、個々に合わせた支援を行っています。自立している利用者が多く、職員からトイレ誘導をすることは少ないですが、利用者の状況に応じて声掛けを行い適宜対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝乳製品を摂ってもらったり、水分摂取や運動を取り入れあまり薬に頼らないよう工夫をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	自立している方には希望の時間を聞いて入浴をしている。拒否があった場合には無理強いをせず後日にしたり時間をおいて再度声掛け、入浴を前面に押し出すことはせずさりげなく誘導したり、時には二人介助で対応することもあり。	入浴時間は、利用者の意向に合わせて、午前午後、適宜対応を行っています。香りを喜ぶ利用者には入浴剤を用意し、湯船に浸かることを楽しむ工夫をしています。季節ごとに菖蒲湯や柚子湯を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自分で動けない方には様子を見ながらベッドで休息してもらう時間を作っている。居室の換気や整理を行い環境を整えることで気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬はおおよそ把握している。薬が変わった場合等はこまめに記録に残し看護師に報告。服薬時には名前を読み上げて本人と一緒に確認しつつ、服薬時間がその日によってずれた場合は職員間で情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々できることが違って来る為その時にできることで気分を変えたり、その時にできたことを自信を持って喜びを感じてもらえるようにしている。生活歴の把握を通し、それぞれの得意分野が活かされるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人で散歩に行きたい方には無理に止めず自由に行けるように支援している。（戻って来ない場合は迎えに行く等不明時のフローチャートあり）車椅子の方でも時には買物やドライブに出掛けたり、少しの時間でも外に出て日光浴をしたりしている。	日常的に近所のスーパーマーケットへの買い物を行っており、隣接している衣料品店で買い物することもあります。1人で散歩に出かける人もいます。利用者の自主性を大切にしています。季節ごとに花見ドライブ、芝桜鑑賞、いちご狩りなどを楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	人によってはお金を持っている人もおり、週1回移動販売車が来た際には自分で支払いをし好きなものを買ったりしている。お金が少なくなり不安になってきた場合には家族にも承諾を得て金庫で預かっているお金から少しずつ財布に入れていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には電話を使用することが可能であるが、自ら希望する方がいないものの、本人の様子によってはこちら側から電話を勧めることもある。また、毎年家族に年賀状を出し好評いただいている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	子供っぽくならないように季節毎にインテリアを変更したり、定期的に設えを変え快適なものであるよう工夫し、不衛生にならないよう床やテーブルは清潔に心掛けている。ホーム内の電気をLEDに替えたことで明るくなり利用者からは新聞も読みやすくなったと話があった。	共有空間は居間と食堂に分かれており、居間の一角が職員の事務スペースとなっているため、利用者と職員が、一緒に安心して過ごせるようになっています。パティオ風の中庭には花壇があり、季節ごとに花の植え替えもしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	スペースがあまり広くないので難しいがちょっとした場所に椅子を置き一人になれる空間を作ったり、利用者同士のその時の気分に合わせて関わりを持てる居場所作りを考えている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際は使い慣れた家具等持ち込んでもらうようにしており、それぞれの居室には好きなアイドルのポスターや家族の写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居時の持ち込みは自由となっています。家族写真、習字、好きな芸能人の写真など利用者が好きな物を飾っています。カラオケが好きな人はポータブルDVDで映像と歌を、クラシック音楽が好きな人はCDデッキで音楽鑑賞を行い、それぞれが過ごしやすい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	料理・買物・工作・たたみもの等できること・わかることを一緒に行い、自立した生活が送れるよう支援している。ハード面ではトイレにはイラストを表示したりし、目で見て分かりやすいように工夫している。		

2023年度

事業所名 グループホーム相模原
 作成日： 令和 6年 4月 24日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	法人（施設）内外の研修参加にばらつきがあり、職員一人ひとりの能力をさらに高める必要がある。	権利擁護をはじめとして虐待等、施設内外部の研修を受け勉強することにより、不適切ケアが無いように努める。	年間研修計画を策定し、計画に基づいた研修の実施。研修後は実施記録を整備し、職員間で情報共有を図る。	12ヶ月
2	35	予定した避難訓練は行っているが、実際に予想外の緊急事態が起きた場合に対応できるか不安がある。	予想外の出来事に対しても、とっさの対応ができるようになる。	非常時の訓練を行い、緊急時の対応をとれるよう備える。また、各職員が備品のある場所等が分かるようにしておく。	12ヶ月
3	19	コロナ禍で家族との関わりが減った。行事の再開により再び家族も一緒にグループホームの運営に関わって欲しい。	家族と節目節目で連絡を取り、良好な関係を維持する。	何か変化がある場合や面会時等、普段から家族と連絡を取り合い、話しやすい雰囲気を作る。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月